

令和3年度
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
グローバル型

研究開発実施報告書 3年次

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校



令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業・グローバル型 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 研究開発実施報告書（3年次）

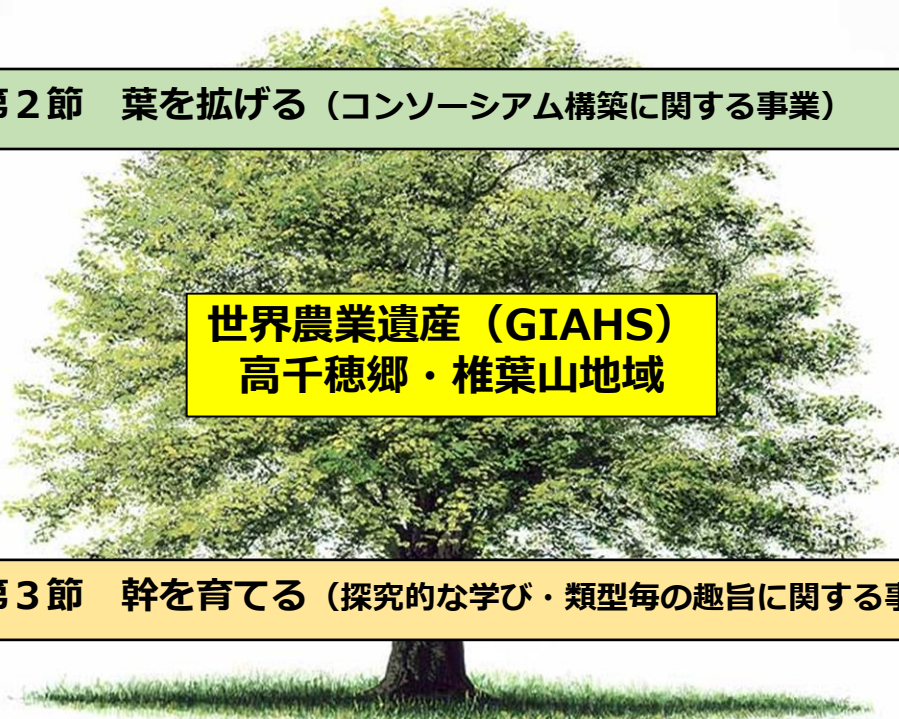
① 研究開発の概要

世界農業遺産・認定地域（GIAHS地域）においてコンソーシアムを構築し、スーパーグローバルハイスクール事業で培った地域課題研究をコンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」を形成し、Society 5.0 をGIAHS地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民（Global citizen）」を育成する。

② 研究開発実施報告

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を広げる（コンソーシアム構築に関する事業）



世界農業遺産（GIAHS）
高千穂郷・椎葉山地域

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

第5節 森を見る（評価に関する事業）

- (1) 関連づける力 Associating (2) 問う力 Questioning (3) 見る力 Observing
(4) 試みる力 Experimenting (5) 繋がる力 Networking

[巻頭言] 3年次 研究開発実施報告書の発行にあたって

[事業風景]

① 令和3年度 研究開発の概要

1-1	研究開発概要	1
1-2	ビジュアル資料（構想概要・ロジックモデル）	3
1-3	目標設定シート	5

② 令和3年度 研究開発実施報告

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

2-1-1	育てたい資質・能力	6
2-1-2	教科での取組みとの関連性	7

第2節 葉を広げる（コンソーシアム構築に関する事業）

2-2-1	コンソーシアム体制	8
2-2-2	地域との協働による取組み	9
	①地球総合環境研究所オープンハウス	10
	②G I A H S シンポジウム	11
	③「世界農業遺産国際会議 2021」のユースセッション	13
	④愛媛県立三崎高等学校との交流・バーチャルフィールドワーク	14

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

2-3-1	総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）の意義	15
	①学習プログラム年間計画	16
	②各コースの実施概要（1年～6年）	17～22
	③グローバルフォレストピア調査研究発表会	23
2-3-2	外国語教育の先進的な取組み	24
	①English Day	25
	②駐日大使との意見交換会／諸外国とのオンラインセッション	26

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

2-4-1	職員研修	27
2-4-2	「教育の情報化」推進に向けた取組み	28～29
2-4-3	社会人向け教育プログラムの開発	30

第5節 森を見る（評価に関する事業）

2-5-1	形成的アセスメントに関する取組み	31～32
2-5-2	事業成果の発信に関する取組み	33～34

③ 関係資料

3-1	各種大会参加・表彰・作品	35～43
3-2	先進校視察・県外研修等	44
3-3	来校者一覧	45
3-4	運営指導委員会	46
3-5	新聞記事・ネット記事・テレビ放送等	47
3-6	教育課程表	48
3-7	担当者一覧	49

地域との連携による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

3年次研究開発実施報告書の発行にあたって

本校は、平成6年4月に県の「フォレストピア宮崎構想」を受け、宮崎県立五ヶ瀬中学校・五ヶ瀬高等学校（全国初の公立の中高一貫教育校）として開校しました。その後、平成11年の学校教育法の改正に伴い、現在の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校となり、今年度で創立28年目を迎えました。全寮制という教育環境の中で、山里の自然や人材を活用した多くの体験型学習をとおして、「感動」を味わい「感性」を磨く教育を実践し、豊かな人間性と社会性を育み、21世紀を担う個性豊かで創造的な発想を身に付け、真の「生きる力」や「人間力」を育成するための教育活動を展開しています。

このような中、令和元年度に本事業の研究開発校に指定され、前事業（SGH）で培った探究活動に、一層の実践力の強化を図り、スパイラル的な探究活動として実践と検証の往還を活動の原点と位置づけ、正解のない問いに自分なりの論を立てる、そして理想と現実との乖離を生徒自身に体感させるという骨太の実践プログラムの体系化を目指してまいりました。

本事業では、発展的な教育活動の組織体として「共学共創コミュニティ」を形成し、協働的に実践・普及することによって Society5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民」を育成することを最終到達点に据えています。これは、五ヶ瀬町を含む近隣5町村が平成27年に世界農業遺産・認定地域（GIAHS 地域）に指定されたことに依拠しており、構成員（自治体・教育機関・地域NPO）と連携し、コンソーシアムを構築、さらに構成員との協働的な地域課題研究の実践（共学）と、外部人材との協働的なカリキュラム開発（共創）の実現により、本校を拠点として「地域に共に学び、地域と共に未来を創る人材（地域人材）」の育成を図りやすい環境が整備されたためです。

初年度においては、コンソーシアムの中核組織である GISHS 協議会を初めとする関連機関の支援を受け、フィリピンでの海外フィールドワークや GIAHS スタディツアーなど体験交流活動が実施され、ローカルとグローバルとの接点を探る活動が活性化されました。昨年度と今年度においては、新型コロナウイルスの影響により各種の取組は規模縮小や変更を余儀なくされましたが、ICT 機器の広汎的活用により、当初期待されていた教育効果と比肩する成果を残すこともできました。また、将来的な地域協働学習の支援員養成の観点から社会人向け教育プログラム講座を発信できたことも、先導的立場として探究活動の普及・推進の一翼を担えたと捉えています。そしてコンソーシアムを中心に、人脈や広報力、各自治体の持つ機動力や実践力、本校の持つ探究的な学びのノウハウなど「それぞれの強みを生かした協働運営」に手応えを持てたことも大きな収穫でした。それぞれの長が重層化することで、どのプログラムにおいても生徒の学びを深化させる取組みとなりました。多岐にわたる活動の評価観点とした「見る力」「問う力」「試みる力」「関連付ける力」「繋がる力」の5つの力は、本校生徒に留まらず、地元の中高生にも確実に芽吹いていると実感しています。

今後も、地域人材の還流を活性化させ、共学共創コミュニティの発展を図りながら、協働的な探求心の醸成を目指していく所存です。

結びに、本校の研究開発に対しまして、終始温かいご指導ご支援をいただきました自治体、大学研究機関、運営指導委員の先生方など、多くの皆様に深く感謝し、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
校長 鬼 東 雅 史

郷土探究1(1年生) 事業風景



用水路見学



カヌー体験



茶摘み・釜入り体験



神話 (高千穂神社)



竹細工



稲刈り



石橋見学 (通潤橋)



餅つき

郷土探究2(2年生) 事業風景



畝作り



苗植え体験



やまめの採卵



農業体験



命のつながり ニワトリの解体



調理体験



土呂久地区現地研修



課題研究

実践探究3(3年生) 事業風景



マイプロ概論 (4年生とのセッション)



GIAHSについて学ぶ (高千穂町地域おこし協力隊 金光氏)



マイプロジェクト実践 (五ヶ瀬町役場訪問)



マイプロジェクト実践 (小笠園訪問)



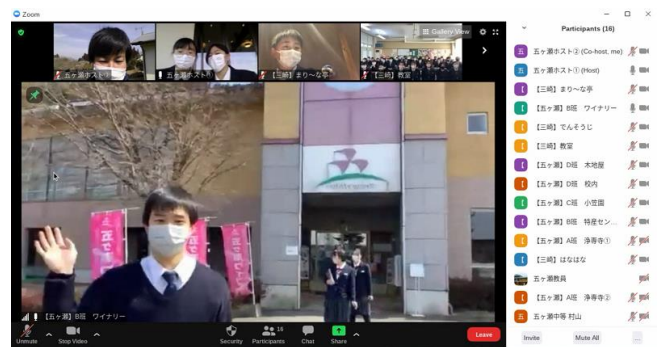
マイプロジェクト実践 (バーバクラブ訪問)



生徒企画によるマイプロ中間発表会



愛媛県立三崎高校とのオンライン発表会



愛媛県立三崎高校とのバーチャルフィールドワーク

実践探究4(4年生) 事業風景



課題研究概論 (校内)



哲学対話 (オンライン)



知の理論・ワークショップ (校内)



GIAHS シンポジウム (校内)



最終成果発表会 (先輩)



知の理論・概論 (校内)



最終成果発表会 (ワークショップ)



ポスターセッション

普遍探究5(5年生) 事業風景



English Day



SDGs 概論 (カードゲーム)



FAO 駐日大使訪問



五ヶ瀬 TSUNAGU (ポスターセッション)



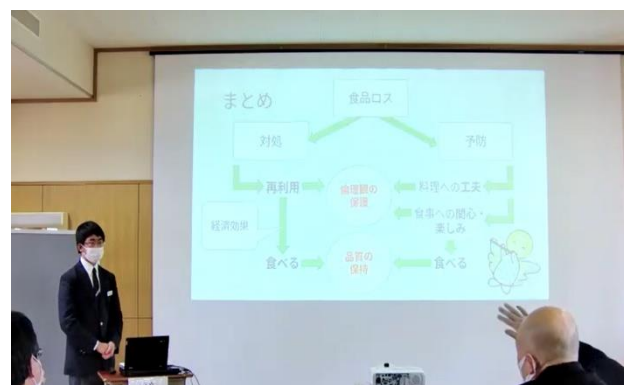
普遍探究活動 (校外フィールドワーク)



普遍探究活動



調査研究発表会 1 (学年別発表会)



調査研究発表会 3 (全体発表会)

普遍探究6(6年生) 事業風景



わら打ち・わらすき



論文作成



ディスカッションの手法を学ぼう①



ディスカッションの手法を学ぼう②



日本語ディスカッション①



日本語ディスカッション②



英語ディスカッション①



英語ディスカッション②

地域との協働による取組み 事業風景



わらじ作り講習会



GIAHS シンポジウム（グループ探究）



探究伴走者への取材



MSEC 探究合同発表会



食べる通信



地域協働学習実施支援員からの指導助言



地球総合環境学研究所オープンハウス（オンライン）



進路×探究（地域の方の講話）

①令和3年度 研究開発の概要

2022年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう						②所在都道府県	宮崎県
2019～2021	①学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校							
③対象 学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	全国初の公立中等教育学校として、宮崎県全域より1クラス40名を募集し、1学年から6学年まで、計228名が在籍している。	
全日制 普通科	40	39	39	38	37	35	228		
⑥研究開発 構想名	学校を核とした「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」の形成								
⑦研究開発 の概要	<p>GIAHS 地域ならではの価値を創造し、地域の未来を切り拓く「野性味あふれる地球市民」を育成するため、次の3点を軸とした研究開発に取り組む。</p> <p>(1) 地域との協働による「共学」の実現（地域課題研究の実践）</p> <p>(2) SGH 事業の成果に基づいた「共創」の実現（探究カリキュラムの開発）</p> <p>(3) 本事業終了後を見据えた「自走的な仕組み」の実現（地域人材の育成）</p>								
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>世界農業遺産・認定地域 (GIAHS 地域) においてコンソーシアムを構築し、スーパーグローバルハイスクール事業で培った地域課題研究をコンソーシアム構成員と協働しながら実践・普及することによって、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」を形成し、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民 (Global citizen)」を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>宮崎県は、21世紀を拓くリーディング・プロジェクトの1つとして「フォレストピア宮崎構想」を昭和62年に発表し、その中で本校は「学びの森」の中核として平成6年に全国初の公立中高一貫教育校として創設された。また、社会や環境に適応しながら独自性のある農林業とそれに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」として、同地域は平成27年に国際連合食糧農業機関 (FAO) によって世界農業遺産 (GIAHS) として認定された。</p> <p>一方で、本校は平成26年に文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定され、5年間の事業に取り組んできた。中山間地域 (ローカル) に顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち、その解決のモデルを考察・実践することができる「野性味あふれるグローバル・リーダー」の育成を目指して、地域課題研究を軸とした教育カリキュラム (総合的な学習の時間) を展開し、SGH 甲子園2018 最優秀賞をはじめ、公益性の高いコンテストにおいても、高い評価を得ることが出来た。</p> <p>このように、本校が位置する五ヶ瀬町を含む5町村は、20年以上に渡ってその価値や魅力が評価され続けてきた地域であるとともに、その拠点として本校が構築してきた探究的な学びの実績があるといえる。</p> <p>そこで、学校を核とした共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community) を形成し、これまでの SGH 事業で構築した探究的な学びを地域と協働しながら実践・普及することによって、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える野性味あふれる地球市民 (Global citizen) を育成できるだろう。</p>							

<p style="text-align: center;">⑧ 研究 開発 の 内容 等</p>	<p style="text-align: center;">⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p><u>(ア) 総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）の実施</u> SGH 事業を5年間実施し、生徒の社会課題に対する当事者意識を高めることができた。今後は、グローバルな視野のもとで、地域の課題解決へ向けた学びに深化させる必要があると考え、「ローカルな問いを深め、普遍的な問いを探究する」ための総合的な探究の時間（グローバルフォレストピア探究）を実施する。これまで培った地域との協働による探究的な学習内容を6カ年に適切に位置づけるとともに、各教科・科目と相互に関連させるため、教科等横断的な学習を計画する。</p> <p><u>(イ) 総合的な探究の時間における形成的アセスメントの実施</u> グローバルフォレストピア探究においては、身につけさせたい5つの力（関連づける力、問う力、見る力、試みる力、繋がる力）の獲得を目指し、生徒及び教師が自己評価・客観的評価を行う。評価方法として、ICEモデル(Young and Wilson, 1995)をもとに、独自の評価基準を設定する。このような形成的アセスメントの構築を通して、学校全体の授業改善や教師、生徒の学びに対する意識改革を促すことを目的とする。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p><u>(ア) フォレストピア検討委員会</u> 各学年コース責任者、研究調査部、前期・後期教頭、地域協働学習実施支援員で構成し、外部有識者からの助言・指導を活かしながら、6カ年を見通したグローバルフォレストピア探究の実施内容の検討やカリキュラム改善を行う。</p> <p><u>(イ) 教科代表者会</u> 各教科の代表者、前期・後期教頭、教務主任、探究主任、進路指導部長で構成し、グローバルフォレストピア探究と教科等横断的な学習の計画や方向性を確認するとともに、探究的な学びに対するアセスメントの役割を担う。</p> <p><u>(ウ) 海外交流検討委員会</u> 研究調査部、前期・後期教頭、事務長、海外交流アドバイザー、教務主任、前期・後期主任、生徒指導部長、寮教育部主任、留学支援担当教職員で構成し、本校生徒の海外フィールドワークや海外留学・進学への支援、海外からの留学生受け入れ（アジア高校生架け橋プロジェクト等）の支援に関する運営・検討を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>		<p>(1) コンソーシアム構成員との協働による企画・運営 SGH 事業で取り組んできた成果をもとに、コンソーシアム構成員（GIAHS 協議会、地域NPO、協働推進連携校）との協働による企画・運営を行う。 [主な活動] GIAHS スタディツアーへの参画、GIAHS シンポジウムの開催</p> <p>(2) 先進的な外国語教育の実践 3学年の生徒全員を対象にしたグローバル探究研修（イギリス）や4学年の選抜生徒を対象にした海外フィールドワーク（GIAHS 認定地域）を実施し、地域課題研究と関連づけながら、コミュニケーション能力を重視した外国語教育を実践する。</p> <p>(3) 社会人向け教育プログラムの開発と提言 将来的に地域協働学習実施支援員として活躍できる地域人材やその資質を有する教職員を養成するための社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）の開発に取り組み、本事業終了後の自走的な仕組みづくりを提言する。</p>

Global (2014～ スーパーグローバルハイスクール事業)

○研究開発の概要: 中山間地域に位置する本校でグローバル・リーダー育成に向けた教育を展開するために、本校の特徴(6カ年教育カリキュラムの編成、探究活動の実践、全寮制教育など)と、国際社会に散在する課題が山積みされた中山間地域の強みを活かして、国内外の関係機関と連携を図りながら課題研究を軸とした研究開発を行う。

○OSGH事業の成果: 社会実践を伴った課題研究活動の展開、探究的な学びを生み出す6カ年教育カリキュラムの開発、海外フィールドワークの実施 など

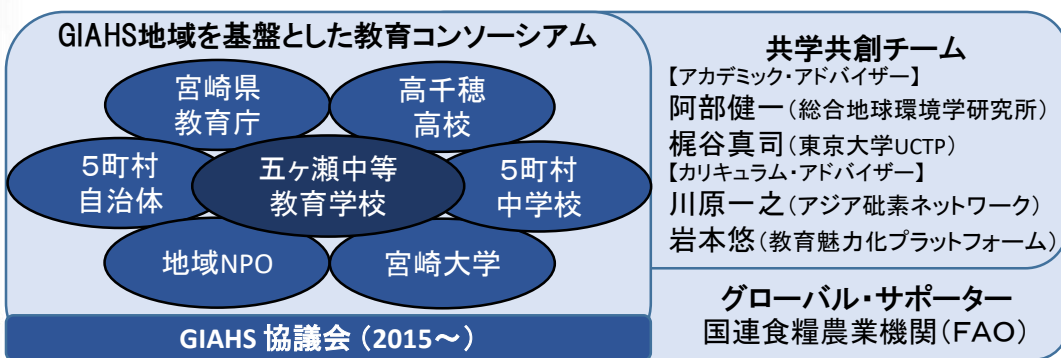
学びの普遍性(アカデミック)

野性味あふれる地球市民(Global citizen)の育成

(1) 関連づける力 Associating (2) 問う力 Questioning (3) 見る力 Observing (4) 試みる力 Experimenting (5) 繋がる力 Networking

風を読む(資質)

葉を広げる(連携) GIAHS Co-Learning Community の構築



世界農業遺産(GIAHS)
高千穂郷・椎葉山地域

幹を育てる(探究) 地域との協働による探究活動の実践

土を耕す(支援) 地域協働学習実施支援員の養成

○みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース
(ウェブ会議システムを活用した社会人向け教育プログラムの提言)

共に学ぶ【拡がり】
○6カ年の総合的な探究の時間
(GIAHS・SDGsをテーマにした地域課題研究)
○GIAHSシンポジウム
(協働連携校との合同シンポジウム)
○GIAHSスタディーツアー
(国内外の留学生向けツアーの企画・運営)

共に創る【深まり】
○Globalな視点×Localな実践
(地域・海外人材との協働による探究活動)
○海外人材との協働的な学び
(留学生受入: アジアの架け橋プロジェクト)
○海外フィールドワーク
(国内外におけるGIAHS地域の魅力発信)

学びの真正性(リアリティー)

Local (1986～フォレストピア構想, 2015～ 世界農業遺産認定)

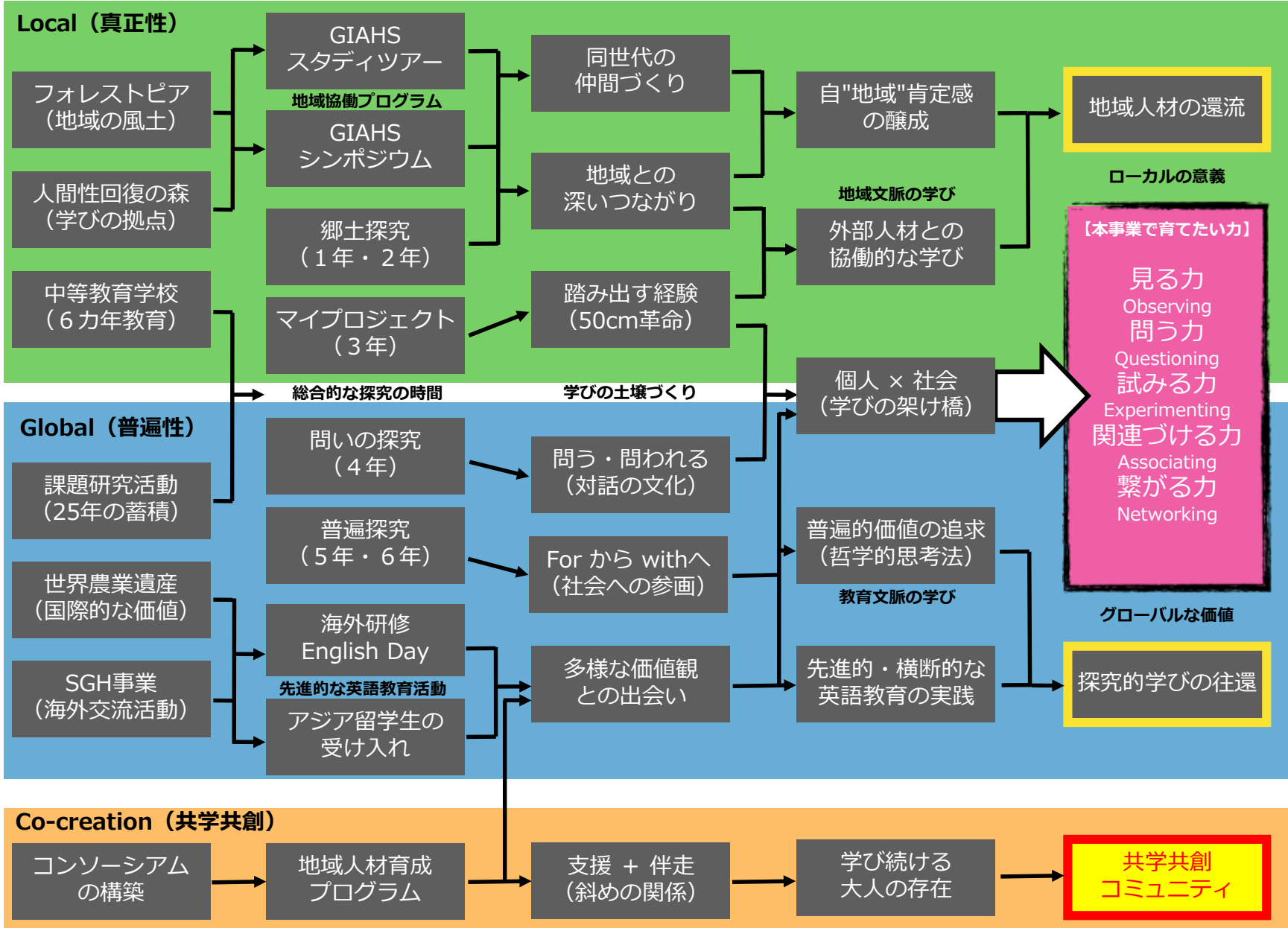
○フォレストピア構想: 県北5町村による「フォレストピア圏域」において、森林が持つ様々な機能と山村固有の伝統的な生活文化を活かし、人間性回復の森林づくりを目指すもの。五ヶ瀬町は「学びの森」に指定され、本校はその拠点校として位置づけられている。

○世界農業遺産 GIAHS: 社会や環境に適応しながら時代を通して継承されてきた独自性のある農林業と、それに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」について、国連食糧農業機関によって認定されたもの。

Society 5.0を地域から分厚く支える人材の育成



創設のことは「天に学び 地に学び 人に学び 天を学び 地を学び 人を学ぶ」



野性味あふれる地球市民の育成 (社会を分厚く支える地域人材)

ふりがな	みやざきけんりつごかせちゆうとうきよういくがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校		

2020年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) コンソーシアム構成員と協働しながら地域課題研究に取り組み、地域人材の1人として社会実践を行う生徒数						単位：人
a 本事業対象生徒：			34	34	37	40
本事業対象生徒以外：	8	15	26	77	69	25
目標設定の考え方：当事者意識をもって地域課題研究に取り組み、実際に社会で実践しようとする生徒数を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 将来地元及びGIAHS地域に関する研究・調査を視野に入れて国内外の大学等に進学する生徒数						単位：人
b 本事業対象生徒：			9	9	11	10
本事業対象生徒以外：	3	5				0
目標設定の考え方：地域課題研究を本校を卒業後も継続し、地域から分厚く社会を支えようとする生徒を育成する。 ※本事業対象外の生徒は「前期課程1年～3年」を意味するため、進学数が「0」になることを注意されたい						
(その他本構想における取組の達成目標) 卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合						単位：%
c 本事業対象生徒：			56.36%	43.39%	32.4%	60%
本事業対象生徒以外：	26.30%	56%	2%	2.56%	2.75%	20%
目標設定の考え方：地域課題研究と関連した外国語教育を通して、4技能をバランス良く身につけた生徒を増加させる。 ※本事業対象外の生徒は「前期課程1年～3年」を意味するため、対象生徒と英語力の習熟段階に差が生じることを注意されたい						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 教育課程内で取り組む地域課題研究又は発展的な実践に参画したコンソーシアム構成員の延べ人数(人数×回数)						単位：人
a	30	40	53	104	145	50
目標設定の考え方：自治体や地域NPO、近隣学校の生徒や大学生(留学生を含む)と「共に学ぶ」機会を増加させる。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアム構成員との協働による発表会・研修会等の実施回数						単位：回
b	2	2	9	7	7	6
目標設定の考え方：本事業の成果を発信し、先進的な教育カリキュラムを地域と「共に創る」機会を増加させる。						
(その他本構想における取組の具体的指標) 社会課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数						単位：人
c	15	18	36	40	35	20
目標設定の考え方：公益性の高い国内外の大会への積極的な参加を促し、学術的価値をもった研究活動を推進させる。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 教育課程外で実施される活動又は発展的な実践に参画した生徒(連携校を含む)の延べ人数(人数×回数)						単位：人
a	40	30	58	89	118	50
目標設定の考え方：コンソーシアムで企画・運営される活動に参加し、地域社会への貢献の意義や実感を得る生徒を増加させる。						
(その他本構想における取組の具体的指標) 社会人向けプログラム「みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース」の開発に参画した延べ人数(人数×回数)						単位：人
d	0	0	19	85	122	20
目標設定の考え方：将来、地域との協働による学習を支援するための資質・能力を有した地域人材を増加させる。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	227	229	224	223	229
本事業対象生徒数			107	106	110
本事業対象外生徒数			117	117	119

②令和3年度 研究開発実施報告

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

2-1-1 育てたい資質・能力

2-1-2 教科での取組みとの関連性

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を拓げる（コンソーシアム構築に関する事業）

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

第5節 森を見る（評価に関する事業）



2-1-1 育てたい資質・能力

(1) 事業のねらい

本事業は、学びの真正性と普遍性を兼ね備えた「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」の形成を通して、Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民（Global citizen）」を育成することを目的とする。その目標達成に向けて、本事業では5つの育てたい資質・能力を設定することによって、総合的な探究の時間だけでなく、全ての教育活動を紐付けたカリキュラム・マネジメントの実現を目指す。

(2) 事業の概要

本校の設立理念を基づいて、本事業が目指す生徒像「野性味あふれる地球市民」を、以下のように設定した。

① 志（挑戦する人）

将来に向けての展望や夢を描き、固い信念とあふれる情熱をもって努力し、一步踏み出すことができる人

② 忠（個性豊かな人）

自分の真の姿を形成し、自分の心の純粋さを求める人

③ 恕（心を開く人）

いついかなる時においても他人を思う気持ちや万物に対する心の広さをもつ人

④ 妙（探究する人）

この上なく巧みで言い表しようのないほど優れた究極の理想を追究する人

⑤ 気（自然に学ぶ人）

万物生成の根源力・勢いを持ち、生涯を通じてフォレストピア精神を醸成する人

また、目指す生徒像に対して必要な資質・能力として次の5つを掲げ、6カ年教育カリキュラムにおいて重点項目を設定した。

① 関連づける力（Associating）

一見関連がないように見える問い、課題、別の領域からのアイデアをうまく関連づける力

② 問う力（Questioning）

常識や現状に挑むような「なぜするのか、なぜしないのか、これをしたらどうなるのか」などの

問いかけを常に行う力

③ 見る力（Observing）

何かをする新しい方法についての洞察を得るために、注意深く・意図的に・一貫して、事象の詳細な部分まで観察する力

④ 試みる力（Experimenting）

失敗を恐れず、知的探究・物質的実験・新しい環境への適応など、新しいアイデアを試す力

⑤ 繋がる力（Networking）

アイデアの多様性を磨くために、属性や試行が異なる人々と繋がる力

五ヶ瀬中等教育学校
目指す生徒像
概念図



〔6カ年カリキュラムにおける重点項目〕

基礎期	1・2年	問う力・見る力
充実期	3・4年	試みる力・関連づける力
発展期	5・6年	繋がる力・関連づける力

(3) 事業の成果と課題

「教科横断的学び」や「学びの個性化・指導の最適化」、またG型事業終了後の学校の在り方について、引き続き昨年度より議論を深め、職員間でのゴールイメージの共有を図ることができた。また、全ての教科・科目において、昨年度以上に積極的にICTを活用した学びの在り方について探究し、実践することができた。

昨年度、高度な運営モデルの作成が課題とされたICEモデルについても、定量的視点から生徒動態を把握するためのいくつかの活用が為された。集団としての動態から生徒個人の動態へと応用するためにも、更なる検証を重ね、教員・生徒ともによりアクセスしやすい形式を希求していく必要がある。

2-1-2 教科での取組みとの関連性

(1) 事業のねらい

新学習指導要領実施に向けたカリキュラムマネジメントの観点から、「育てたい5つの力」(2-1-1参照)を教科ごとに設定し、全ての教科において「探究的な学び」の要素をその中に盛り込むことによって、教科横断的な学びを創出しやすい環境を目指している。今年度は特に、「GF探究×教科」だけではなく、「教科×教科」が「探究」をキーワードとして横断するような取組みを推進した。

(2) 事業の概要

「探究」をキーワードとして、教科間の横断的な学びを実践した例を以下に記載する。

○「社会科(地理)×理科(生物・地学)」

今年度は寮教育の一環として実施される教養講座において、1年間を通して社会科と理科の教員2名が担当する講座を開講し、GIS(地理情報システム)をツールとして活用した、教科横断的な学びの場を創出した。

1学期には「GISでつながる地理×生物」講座を開講した。過去に理科教員が取得した地理空間情報を活用して、五ヶ瀬町内に生息するベッコウサンショウウオなどの分布図を作成し、今もGIAHS地域にそれらの希少生物が生息しているかどうかについて、フィールド調査を実施した。

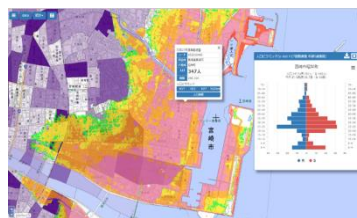


GISで作成したサショウウオの分布図



フィールド調査の様子

また2学期には、「GISで探究する宮崎の防災」講座を開講した。この講座では、校内における教科横断に留まらず、宮崎大学教育学部大平ゼミ(自然地理学)や宮崎県情報政策課・危機管理課とも連携し、半年間の取組みの様子をNHKに密着取材していただきながら活動を実施した。「ひなたGIS」を活用して、南海トラフ地震発生時



「ひなたGIS」による分析

の宮崎県内沿岸部の全ての津波浸水想定区域について、人口増減・高齢化や避難施設の有無などの観点から詳細に分析し、活動に参加する大学生も交えて活発に対話を行った。

3月には、さらに延岡高校・日向高校の生徒も活動に参加して、実際に延岡市・日向市においてフィールドワークを行い、同日に開催した活動成果報告会では地域の方々や自治体関係者に対して、半年間の活動によって明らかになったことを発表し、成果を地域に還元した。一連の活動の様子は、定期的にNHKの放送やネット記事等を通じて発信され、東日本大震災11年目にあたる令和4年3月11日には、半年間の活動の様子が30分間のドキュメンタリーとして放送された。(「3-5 新聞記事等」参照)

(3) 事業の成果と課題

今年度は、「GF探究×教科」だけではなく、「教科×教科」が「探究」をキーワードとして横断するような取組みが数多く実践された。紙面の都合により「社会科×理科」の実践例のみを記載したが、例えば他にも、社会の授業において五ヶ瀬町内を通る古道・日向往還の痕跡を探すフィールドワークを実施した後、国語の授業において当時の情景を思い起こして俳句にしたための活動を行い、それを英語の授業において英訳する、というような3教科にまたがる活動も実施された。来年度より、全教科において探究的学びが盛り込まれる高等学校新学習指導要領が実施されるが、本校においては、既に3年間にわたって教科ごとの「育てたい5つの力」の観点に基づいた実践が行われてきた。今一度それらの実践の効果と課題について振り返りを行い、効果が高い取組みについてはそのノウハウを共有し、今後も「探究」をキーワードとした教科横断的な学びの機会を、学校全体として創出していく必要がある。



NHK ネット記事



NHK ドキュメンタリー予告

第2節 葉を拡げる (コンソーシアム構築に関する事業)

2-2-1 コンソーシアム体制

2-2-2 地域との協働による取組み

- ①地球総合環境研究所オープンハウス
- ②G I A H Sシンポジウム
- ③「世界農業遺産国際会議2021」
ユースセッション参加
- ④愛媛県立三崎高等学校との交流
バーチャルフィールドワーク

第1節 風を読む (資質・能力の育成に関する事業)

第2節 葉を拡げる (コンソーシアム構築に関する事業)

第3節 幹を育てる (探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業)

第4節 土を耕す (教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業)

第5節 森を見る (評価に関する事業)



2-2-1 コンソーシアム体制

(1) 事業のねらい

本事業では、5町村で構成されるフォレストピア構想(1986年、宮崎県)及び世界農業遺産(2015年、国連食料農業機関)を基盤としたコンソーシアムを構築し、GIAHS地域で既に取り組みされている諸活動を体系化することを目指す。また、このような体制を整備することによって、コンソーシアム構成員との協働的な地域課題研究の実践(共学)と、外部人材との協働的なカリキュラム開発(共創)を実現し、本校を拠点として「地域と共に学び、地域と共に未来を創る人材(地域人材)」をGIAHS地域から輩出することが期待される。

(2) 事業の概要

コンソーシアムの体制と活動実績は、以下の通りである。

①コンソーシアムの構成団体

- ・GIAHS協議会 人材育成PJチーム
5町村より各1名
- ・NPO法人五ヶ瀬自然学校
理事長 杉田 英治
- ・五ヶ瀬自然エネルギー社中
代表 石井 勇
- ・宮崎大学 GIAHS研究グループ
准教授 竹下 伸一
- ・宮崎県立高千穂高校(地域協働連携校)
校長 佐伯 浩美

[活動実績]

7/16	第1回企画運営委員会を実施
2/18	第2回企画運営委員会を実施

※第2回はオンライン実施



②海外交流アドバイザー

- ・NPO法人グローバルアカデミー
代表 田阪真之介

[活動実績]

8/20	第1回担当者会議を実施
2/18	第2回コンソーシアム企画運営委員会に参加
3/12	本校の課題研究発表会に審査員として参加

③地域協働学習実施支援員

- ・高千穂町役場 総合政策課
主査 田崎 友教

[活動実績]

4/30	コンソーシアム構成員(椎葉中学校)との協働事業を実施
8/20	第1回担当者会議を実施
9/14	「世界農業遺産国際会議2021」に関する協議①
10/5	「世界農業遺産国際会議2021」に参加する生徒選考実施
10/26	GIAHSスタディツアー(特命全権大使対象)を実施
11/26	「世界農業遺産国際会議2021」に参加する生徒への指導・助言
2/18	第2回コンソーシアム企画運営委員会に参加
3/12	本校の課題研究発表会に審査員として参加
3/19	高千穂郷・椎葉山地域オンラインイベント実施

(3) 事業の成果と課題

今年度の成果として、昨年度の課題であった「企画運営委員会の在り方」を明確にすることができたと感じている。その理由としては、企画運営委員会の内容を、「GIAHS地域をテーマとした生徒たちの学びの深まり」を軸におき、第1回では11月に実施した「GIAHSシンポジウム」と同様のテーマでワークショップを行い、第2回では「世界農業遺産国際会議2021」のユースセッションに参加した生徒の発表・質疑の時間を設定した。その結果、本企画委員の協働による学びの価値について共有できたと感じている。